

議題 1

第 2 次健康くまもと 2 1 基本計画 の進捗管理について

- (別冊 1) 進捗管理表
- (別冊 2) 成果指標等の推移
- (別冊 3) 基本計画概要版
- (別冊 4) 基本計画書

「第2次健康くまもと21基本計画」

本計画では、健康増進法に基づく「市町村の健康増進計画」として、市の総合計画との調和を図り、市民の健康づくり施策の目標や方向性等について定めております。

○めざすもの(理念)

「全ての市民が生涯を通して、住み慣れた地域で健康でいきいきと暮らせるまちを市民と協働でつくる」

○基本目標

「健康意識の醸成」「健康分野における地域コミュニティづくり」「健康寿命の延伸」

○基本目標の指標

健やかに生き生きと暮らしていると感じる市民の割合

基準値 58.9% (H24) → 目標値 65% (H30)

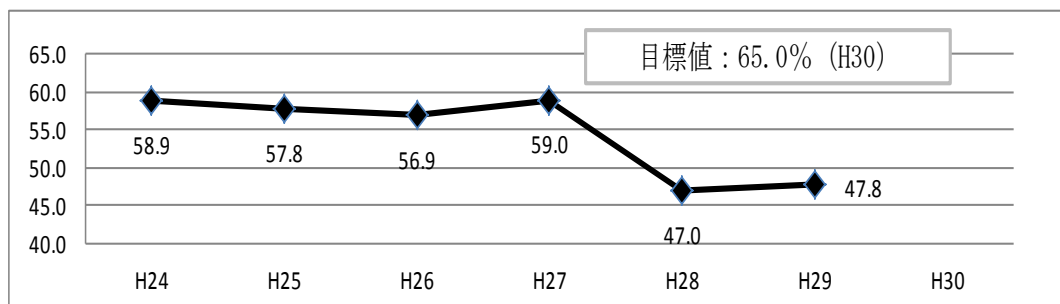
自ら健康づくりに取り組んでいる割合

基準値 68.9% (H24) → 目標値 75% (H30)

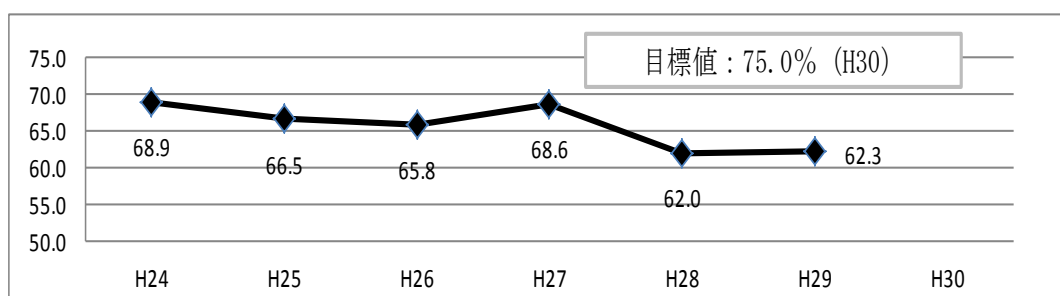
○基本的な方向と取り組み項目

- (1) 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底
- (2) 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上
- (3) 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり
- (4) 健康を支え守るための社会環境の整備

健やかにいきいきと暮らしていると感じる市民の割合



自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合



<生活習慣病の発症予防と重症化防止の徹底>

(1)がんの予防 (P1~3)

【関係機関・団体】

- ・ 熊本県歯科医師会が医科と連携して行っている「熊本県がん患者医科歯科連携事業」に対する協力の強化。【市歯科医師会】
- ・ 特定健診受診券送付時、熊本市のがん検診の受け方を詳細に記載した印刷物を同封。【協会けんぽ】
- ・ がんサロン（熊本市内は 13 箇所（当課主催 1 箇所を含む））の開催【がんサロンネットワーク熊本】
- ・ じん肺健康診断及び有害業務にかかる定期健康診断の確実な実施の指導。【労働基準監督署】
- ・ 長期治療を必要とする労働者が就労しながら治療を受けることができる両立支援の体制づくりや啓発活動の支援を行う両立支援促進員を設置し、がんをもつ労働者と職業生活との両立支援の研修を開催するとともに、がん検診への受診向上を目的とした啓発等をおこなった。【熊本産業保健総合支援センター】

【行政】

- ・ 満 40 歳になる市民全員にがん検診勧奨はがきの送付。特定年齢を対象に肺がん検診の受診勧奨ちらしを個別送付。乳がん・子宮頸がん無料クーポン券を送付。がん対策企業等連携協定の推進。【健康づくり推進課】

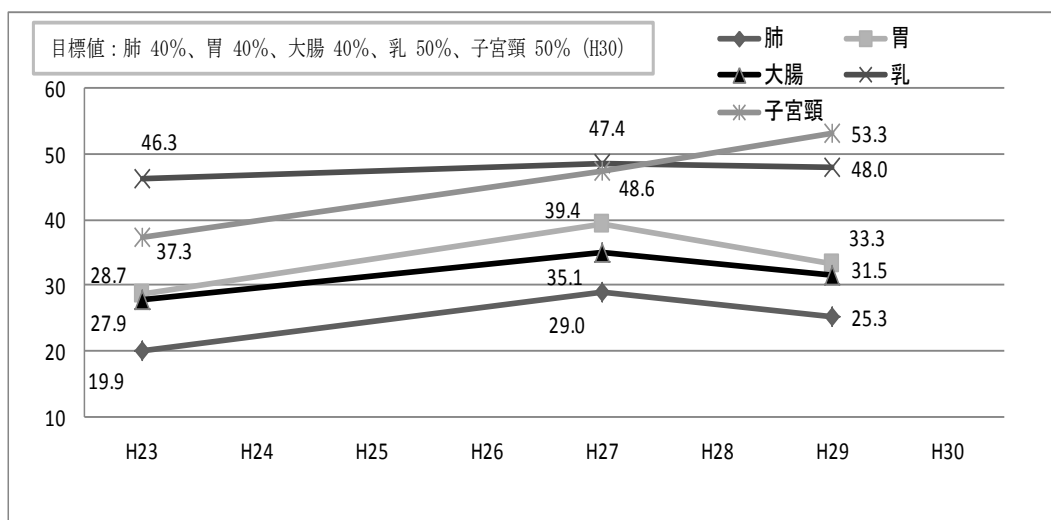
<平成 30 年度からの新規取り組み>

熊本市がん健診受診率向上計画の推進【健康づくり推進課】

- ・ 20～38 歳偶数年齢女性に対する子宮頸がん検診の受診勧奨案内の送付
- ・ 40・50・60 歳の方へ受診勧奨はがき送付
- ・ 胃がん検診内視鏡検査導入（平成 30 年 12 月開始予定）
- ・ 40～50 歳偶数年齢女性に対する乳がん検診の受診勧奨案内の送付
- ・ 来年度 20～38 歳子宮頸がん検診対象者に対する受診勧奨案内の送付（年度末）
- ・ 来年度 42～58 歳乳がん検診対象者に対する受診勧奨案内の送付（年度末）

(1) がん

がん検診受診率の向上（市が実施するがん検診の他、職場検診、人間ドック等を含む）



<生活習慣病の発症予防と重症化防止の徹底>

(2)循環器疾患の予防 (P4~5)

【関係機関・団体】

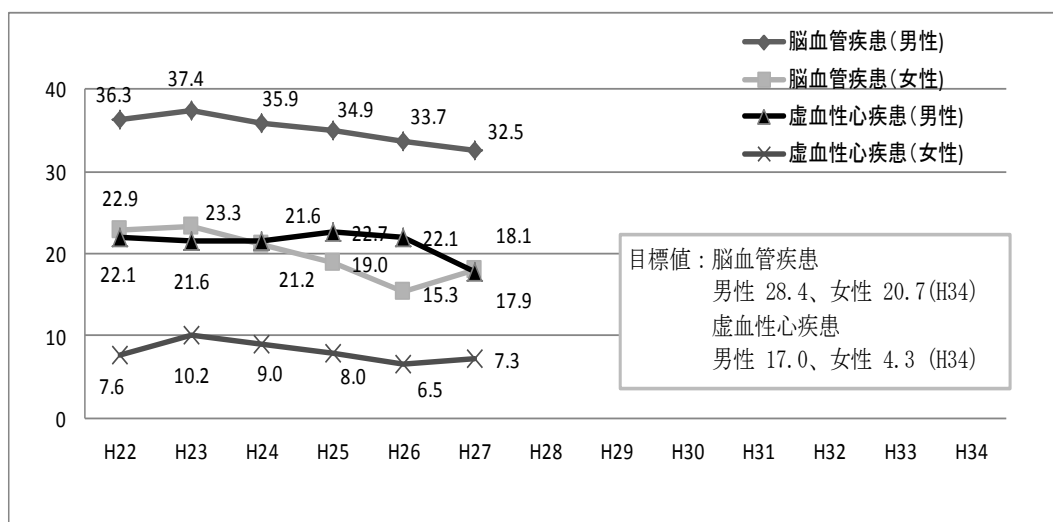
- ・ 事業場の産業保健スタッフ等を対象に、食生活の見直しを図り脳卒中や心臓病の予防に関する研修や呼吸機能検査の活用（-COPDの啓発-）、運動指導士による実技を取り入れた研修を開催。【熊本産業保健総合支援センター】
- ・ 血圧高値者に対し受診勧奨を実施。【協会けんぽ】

【行政】

- ・ 特定健診受診率向上及び保健指導利用率向上のため、国保加入者に対し、電話・ハガキによる受診勧奨（特定健診：電話約 60,000 件・ハガキ約 87,000 枚、特定保健指導：電話約 2,700 件）【国保年金課】

(2) 循環器疾患

脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少（10万人当たり）



<生活習慣病の発症予防と重症化防止の徹底>

(3)糖尿病の予防 (P6~8)

【関係機関・団体】

- ・ 熊本県歯科医師会が行っている、糖尿病歯周病連携事業に、さらなる協力をはかる。重度の歯周病患者への糖尿病検査の励行。【市歯科医師会】
- ・ 空腹時血糖 100mg/dl から 125mg/dl までのリスク保有者について、平成 26~28 年度の経年データと啓發文書を送付。【協会けんぽ】
- ・ 糖尿病治療中の被保険者について糖尿病性腎症予防支援プログラムを提案し、参加希望者に対して6ヶ月のフォローを実施。(参加者 21名) 治療中断者については、治療再開とプログラム参加を勧奨。【協会けんぽ】

【行政】

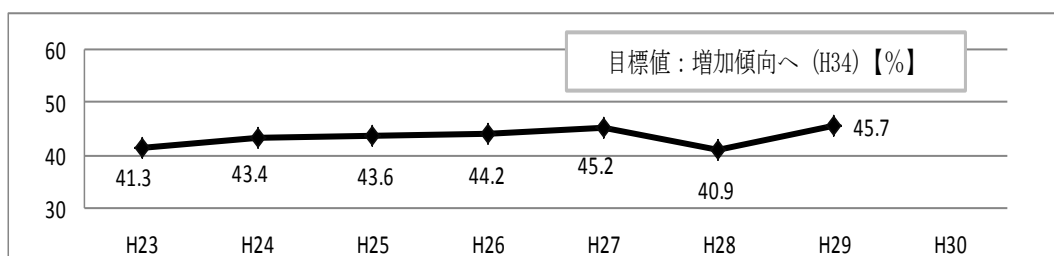
- ・ 糖尿病の早期発見のため、校区単位の健康まちづくりの取組で、東区健康をつくるボランティア医師・歯科医師の会(通称とんぼの会)との連携による随時血糖測定を実施。(5校区と区民まつりで実施 参加者 318人)【健康づくり推進課】
- ・ 高齢者健康サロン支援、糖尿病予防教室、校区単位の健康まちづくり等の取り組みを通して、糖尿病やその予防等に関する情報提供を実施した【各区保健子ども課】
- ・ 国保特定健診の結果、糖尿病疑いの者に対して保健師や管理栄養士による受診勧奨を実施(文書・電話・訪問)実績:平成 29 年度国保特定健診受診者で HbA1c6.5 以上かつ生活習慣病未治療者 374人【国保年金課】

<平成 30 年度からの新規取り組み>

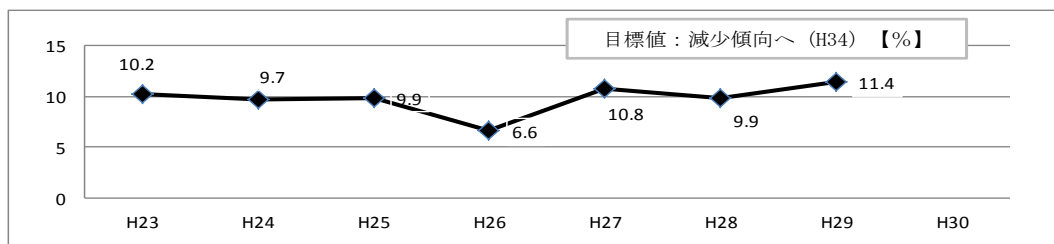
- ・ 「けんつく会(健康をつくるボランティア医師の会)」との共催で、各校区での健康づくりイベント及び協力医療機関において簡易血糖検査を実施し、測定した検査結果をもとに受診勧奨及び保健・栄養指導を行なう。保健・栄養指導参加者が生活習慣改善目標を設定し、健康づくりに取り組めるよう支援するとともに参加者のデータを評価・活用し、効果的な意識啓発を実施する。【健康づくり推進課】
- ・ 国保特定健診結果と国保レセプトデータから糖尿病治療中断者を把握し必要な者へ受診勧奨を実施する。熊本県糖尿病対策推進会議をはじめとする関係機関と連携を図り糖尿病性腎症重症化予防プログラムに取り組む。【国保年金課】

(3)糖尿病

治療継続者の割合の増加



糖尿病有病者の増加の抑制



<生活習慣病の発症予防と重症化防止の徹底>

(4) CKD（慢性腎臓病）の予防（P9～10）

【関係機関・団体】

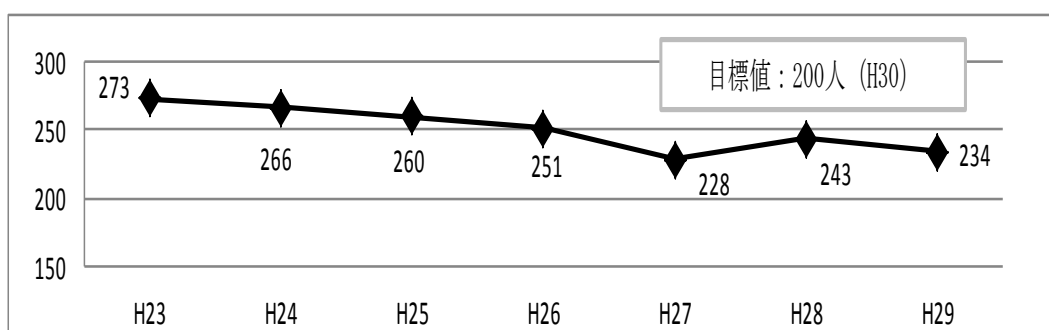
- ・ 医専連との連携を図り、CKDの予防のための栄養指導を実施。糖尿病からCKDへ移行しないように食事の指導を実施。糖尿病からCKDへの移行を減らすように栄養士のいないクリニックからの派遣要望に応じていく。【県栄養士会】
- ・ 事業場の産業保健スタッフ等を対象に、CKDの危険因子である糖尿病や高血圧等に関する研修会を実施。【熊本産業保健総合支援センター】
- ・ 口腔内との関連性がまだ認知されていないので、啓発活動を行う【市歯科医師会】

【行政】

- ・ 国保特定健診の結果、CKDの疑いがある未治療者に対して保健師や管理栄養士による受診勧奨を実施（文書・電話・訪問）実績：平成29年度国保特定健診尿蛋白＋以上かつ生活習慣病未治療者368人【国保年金課】
- ・ CKD対策推進会議、かかりつけ医と専門医との連携を図るためのプロジェクト会議などにより病診連携システムを実施。事業開始後9年を経ての検証・事業評価を行う。【健康づくり推進課】

(4) CKD（慢性腎臓病）

新規人工透析者数の減少



<社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上>

(1) こころの健康 (P11~12)

【関係機関・団体】

- ・ 保育士等の保育に携わる職員を対象に「心のケア」の研修をおこなった。58名の参加があった。【市保育園連盟】
- ・ 教職員対象の「精神科医・臨床心理士による相談」の日程周知を行うとともに、年1回のストレスチェックを実施する。【楡木小】
- ・ 熊本市の各小中学校単位PTAにおける研修会の実施に助成する単P研修会助成制度の展開。H29年度は総計25校に助成金を支給(上限1万円) H28年度は震災後の心のケアに関する講演会が多かったがH29は各校ごとに特色のある講演・研修会が実施された。(例：壺川小1/31「こどもとの対話の秘訣」講師：西村岳人)(例：池田小9/28「こころが育って生き易くなるということ。」講師：岡崎光洋)【PTA協議会】
- ・ 事業場におけるストレスチェックの確実な実施を指導。「熊本こころの健康アドバイザー制度」の周知。【労働基準監督署】

【行政】

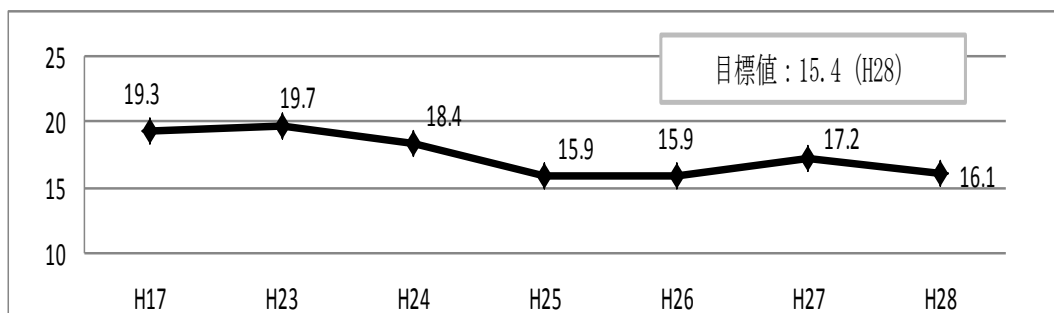
- ・ 学校におけるこころの健康についての環境整備や早期発見の取り組みとして、児童生徒や保護者が悩み等を話せるようにスクールカウンセラー、心のサポート相談員の配置やスクールソーシャルワーカー、ユア・フレンドを派遣した。【総合支援課】
- ・ 精神疾患について、ホームページやラジオを活用した啓発を実施。また、自殺対策強化月間には、ラッピング電車の運行し、自殺予防の啓発を行った。精神科医師・心理士・保健師等による相談を実施【精神保健福祉室】

<平成30年度からの新規取り組み>

- ・ ゲートキーパー養成研修を29年度同様、年度初めに追加実施。・震災後の心のケア研修、相談会を熊本県精神保健福祉センター、熊本こころのケアセンターと共催で企画実施する。アルコールに関する講演会の開催予定。【こころの健康センター】

(1) こころの健康

自殺者の減少(人口10万人当たり)



<社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上>

(2)次世代の健康 (P13~15)

【関係機関・団体】

- ・ 熊本市の各小中学校単位PTAにおける研修会の実施に助成する単P研修会助成制度の展開。H29年度は総計25校に助成金を支給(上限1万円)H28年度は震災後の心のケアに関する講演会が多かったがH29は各校ごとに特色のある講演会・研修会が実施された。(例:出水南小10/24「家庭教育について～子育ては自分育ち わいわいがやがやトキグ～」講師:民永博美氏他3名)(例:附属小6/13「子育てに生かすコーチング～親子の程よい距離間の保ち方～」)【PTA協議会】
- ・ 子どもの夜更かし、睡眠不足が脳に与える影響についての研修会を開催した。保育関係者115名が参加した。【市保育園連盟】
- ・ 食事、睡眠、運動の生活習慣等について、保健指導や3年生以上の保健学習を通して、学習し、習慣化・行動化に向けて実践した。PTA講演会、就学時健康診断時の講話等を通して、就学や子育てに関する情報提供と支援を行った【楡木小】
- ・ 熊本地震における子どもの心の動きを注視し、心の解放を踏まえ、外遊びや運動遊びを意識的に取り入れながら、日常の生活リズムを取り戻し、基本的な生活習慣の習得に努めた。各園及び団体を通して、「子育て相談・研修会案内・体験保育(未就園の子どもを対象)」等の情報を配信すると共に、保護者間の交流ができる空間の提供に努める。【私立幼稚園・認定こども園協会】
- ・ 子ども、親世代、高齢者等と一緒に集えるイベントを開催した【地域包括支援センター連絡協議会】

【行政】

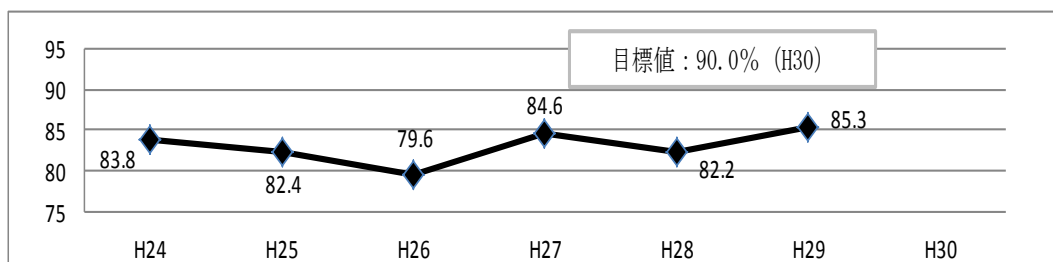
- ・ 母子手帳発行等の妊産婦健康相談にて、喫煙や休息、妊娠糖尿病等の早産予防について保健指導を実施。地域の子育て支援を、地域で考え、実践するしくみを作り、地域の子育て支援活動を支援するため、各校区で住民や子育て支援に係る関係機関と協働して、子育て支援ネットワーク活動を実施している。子育て世代の保護者の孤立化を防ぐとともに健やかに育成できる環境整備を図るため、こんにちは赤ちゃん事業による訪問の実施【子ども政策課・保健子ども課】
- ・ 高校文化祭で、高校保健委員や大学生ボランティア(熊本大学医学部保健学科の学生)の協力の元、ピアエデュケーション(仲間教育)の手法を取り入れたエイズ・性感染症予防啓発に関するキャンペーンを実施【感染症対策課】

<平成30年度からの新規取り組み>

- ・ 各校区子育て支援ネットワーク会議の活性化を図る。各区及び市子育て支援ネットワーク連絡会議の活性化を図る。【子ども政策課】

(2)次世代の健康

子育てが楽しいと感じる市民の割合



<社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上>

(3) 働き盛り世代の健康 (P16~17)

【関係機関・団体】

- ・ 経済三団体（熊本県商工会連合会・熊本県商工会議所連合会・熊本県中小企業団体中央会）と協定を結び、事業所自ら健康経営を実践する仕組みであるヘルスター健康宣言事業を本格開始。平成29年度末で1,142社が健康宣言併せて宣言事業所の取り組み及び健診スコアによって393社をヘルスター認定。【協会けんぽ】
- ・ 事業場の産業保健スタッフ等を対象に、生活習慣病に関する研修会を実施。【熊本産業保健総合支援センター】

【行政】

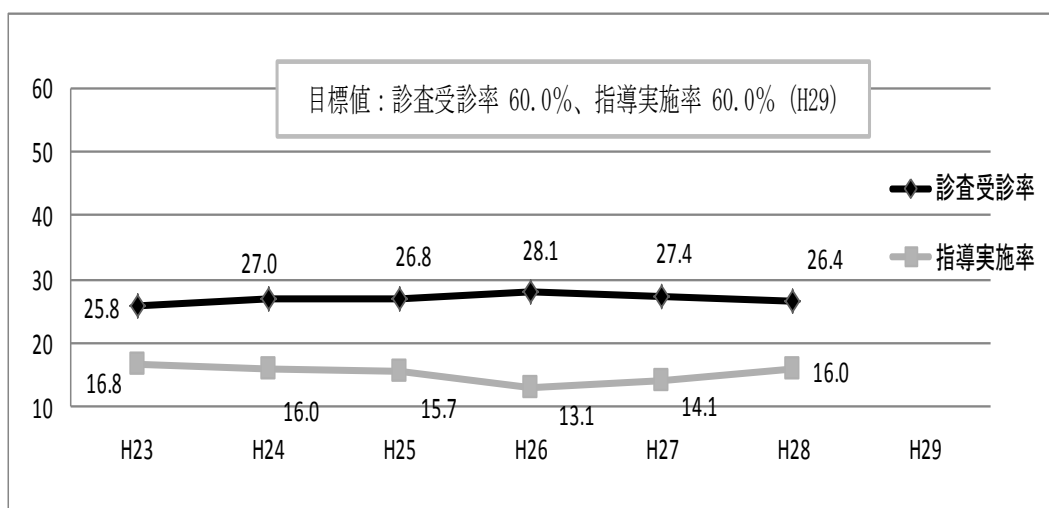
- ・ 国保の働き盛り世代40代・50代のそれぞれに勧奨内容を変えて、ハガキによる特定健診受診勧奨を実施【国保年金課】

<平成30年度からの新規取り組み>

- ・ 宣言事業所のフォローアップとしてアンケートを実施。アンケート結果による事業所訪問（保健師、健康経営アドバイザー）を実施予定。協定先である「東京海上日動」「アクサ生命」「損保ジャパン日本興和ひまわり生命」と連携し、宣言事業所数の拡大を図る。【協会けんぽ】
- ・ 健康まちづくり推進員協議会のH30年度の努力目標「糖尿病予防のPR」に重点をおき、特定健診の受診につなげるよう呼びかけを行う。【健康まちづくりを推進する東区】

(3) 働き盛り世代の健康

特定健康診査の受診率・特定保健指導実施率の向上



<社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上>

(4) 高齢者の健康 (P18~19)

【関係機関・団体】

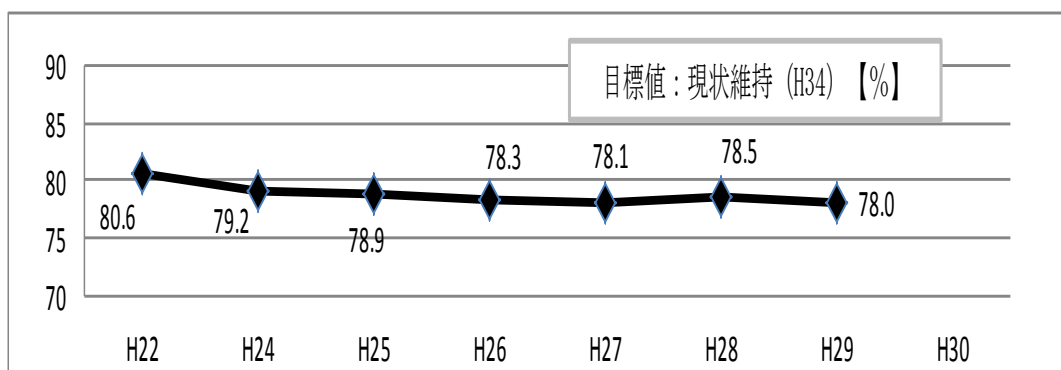
- ・ いきいき百歳体操を広めている。【地域包括支援センター連絡協議会】
- ・ 事業場の産業保健スタッフ等を対象に、50歳を超えてからの健康づくりや転倒リスク回避のための強化法、健康不調を予防するセルフケアのやり方等の研修を実施。【熊本産業保健総合支援センター】
- ・ 熊本市内4ヶ所、市外10か所で健康相談・血圧測定・体脂肪測定を行う「まちの保健室」においてロコモティブシンドローム予防・口腔保健などの情報を提供している。【県看護協会】
- ・ 平成29年度地域包括支援センターネットワーク等強化事業補助金を活用して、「いきいき百歳体操大交流会」を熊本学園大学で開催し、県内、熊本市内での普及活動を実施した。【健康まちづくりを推進する中央区】
- ・ 認知症サポーター養成講座を小学生や地域ボランティアにも実施。【健康まちづくりを推進する東区】
- ・ 老人会、民協、ささえりあを中心に、老人会や高齢者サロン等にて情報提供を行っている。【健康づくりを推進する西区】
- ・ 認知症、声かけ模擬訓練（毎年1回実施） H30年3月まで3年連続実施。【健康づくりを推進する北区】

【行政】

- ・ 65~74歳には国保特定健診、75歳以上には後期高齢者健診・歯科口腔健診を実施。重複頻回受診者に「元気くらぶ」の情報提供を行う。【国保年金課】
- ・ 住民主体の介護活動を支援する「くまもと元気くらぶ」を創設した。(18団体を支援) 認知症について正しく理解し、認知症の方や家族を見守る「認知症サポーター」を養成するための講座を実施。(認知症サポーター養成数 9,533人) 【高齢介護福祉課】

(4) 高齢者の健康

65歳以上の元気な高齢者の割合



<健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり>

(1) 栄養・食生活 (P20~21)

【関係機関・団体】

- ・ 「子どもの心も育む食」と題して乳幼児期の食生活についての研修を行った。保育士等 111 名の参加があった。【市保育園連盟】
- ・ 各園で実施している「食育活動」について、保護者へ啓発する中で、各家庭での食育の重要性や具体的な働きかけ等について、ヒントやきっかけができる情報・機会等を提供する。各園での「給食参観」・「給食試食会」・「給食メニュー表配布」や「園内食育活動」等を通して、育てる・食べる・栄養への感謝の気持ちや自然とつながっていること等について、保護者へ啓発する。【私立幼稚園・認定こども園協会】
- ・ 保健学習や食に関する指導を通して、食育を行っている。また、食育だよりや保健だより等を通して、保護者へ啓発を行っている。【楡木小】
- ・ 生活習慣病予防を目的とした献立について、小学校区ごとに調理実習を通じて普及・啓発を行う「すこやか食生活改善講習会（熊本市委託事業）」を実施（H29 年度実績：92 校区 2,084 人）。地域にて、食生活改善を中心とした生活習慣病予防および子ども・高齢者への健康づくりに関する調理実習や啓発活動等（地区組織活動）を実施（H29 年度実績：9,368 回 42,815 人）【食生活改善推進委員協議会】
- ・ 食環境整備事業として、健康づくり応援店での栄養成分表示等の対応を行う栄養アドバイザーを養成している。【県栄養士会】

【行政】

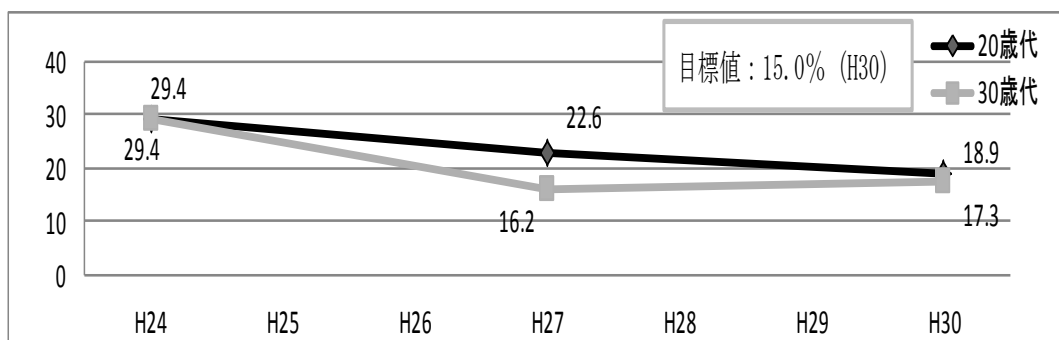
- ・ 朝食欠食の改善、共食の増加に向け、子どもの食育推進ネットワークを通じた食育活動を実施。食生活改善推進員と協働で生活習慣病予防の活動を実施。市民が身近なところでの食育を実践しやすい環境整備のために、食事バランスガイドや栄養成分表示等を実践する「健康づくりできます店」の推進【健康づくり推進課】

<平成 30 年度からの新規取り組み>

- ・ 食生活改善推進員、校区防災連絡会等と協働で、地域リーダー及び保育園や幼稚園等の保護者など若い世代を対象に、有事の際にも栄養・衛生面に配慮した食生活を実践できるように、地域で防災食育（調理実演、親子クッキング、食育劇等）を実施する。【健康づくり推進課】

(1) 栄養・食生活

20、30代男性の1週間あたりの朝食の欠食率の減少



<健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり>

(2) 身体活動・運動 (P22~24)

【関係機関・団体】

- ・ 各校区体育協会の中で地域住民が気軽に参加できるようなスポーツイベントを企画。校区行事の企画、運営、指導を行う（ミニバレー大会、卓球大会、グラウンドゴルフ大会、バドミントン大会、Tボール大会、ソフトバレー大会、他）親子スポーツ大会を開催（各区ごとに年1回）。【市スポーツ推進委員協議会】
- ・ 総合型スポーツクラブ主催で放課後子供スポーツ教室を3年生対象に開催した。（ニュースポーツ、バドミントン、水泳、バスケット、サッカー、ラグビー、体操教室、囲碁教室）など多様目で行った。【市スポーツ推進委員協議会】
- ・ 校区の健康まちづくり部会や体協などが中心となり、地域の歴史がわかるクイズコーナーをコースに設置するなどしながら「健康ウォークラリー大会」を開催。【健康まちづくりを推進する西区】

【行政】

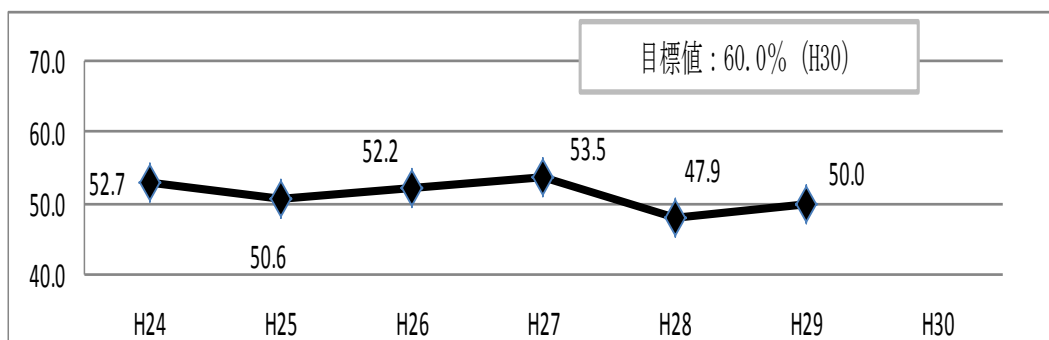
- ・ 総合型地域スポーツクラブの育成・支援のため、学校体育施設の年間優先確保や、総合型会員等との交流会や育成フォーラム等を実施した。※活動中のクラブ数 21（51小学校区）、会員数 6,126 人（平成 29 年 3 月 1 日現在）【スポーツ振興課】

<平成 30 年度からの新規取り組み>

- ・ 医療費削減のために、ロコモティブシンドロームにならないために、お年寄りのための、ロコモ体操を、総合型地域スポーツクラブ主催で、ロコモ教室やグラウンドゴルフ大会を行う。【市スポーツ推進委員協議会】
- ・ ささえりあさんと協力し合い、ささえりあさんに、グラウンドゴルフの受付などに協力してもらう。そのお礼に、ささえりあさんが取り組んでいるサロンにも、レクリエーションや、ストレッチなどの指導に出かける。【市スポーツ推進委員協議会】
- ・ 熊本市民スポーツフェスタの実施・検討。子どもから高齢者までスポーツに親しめる大会として、春季に校区対抗競技 8 種目、夏季にウォータービーチバレー他 5 種目、秋季に体操教室他 6 種目、冬季にスケート教室他 4 種目を予定。また、フェスタの参加者を増やすことが、スポーツの習慣化につながることから、今年度、実行委員会にて開催形態の検討を行う予定。【スポーツ振興課】

(2) 身体活動・運動

1回30分以上の運動（ウォーキング等）を週1回程度以上している市民の割合



<健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり>

(3) 休養 (P25)

【関係機関・団体】

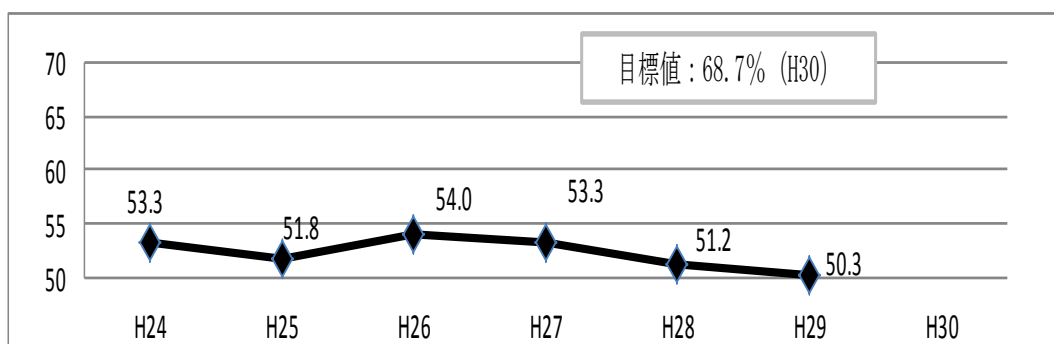
- 各園及び団体を通して「睡眠の重要性」について保護者へ啓発するとともに、日常の保育において「寝ることの大切さ」について、絵本や紙芝居等も含め自然と学べる機会を提供する。【私立幼稚園・認定こども園協会】

【行政】

- 保護観察所事業、ふれあい出前講座等において、ストレス対処法について講話を実施。(引受人会講話 3 回 参加者数 104 人、出前講座等 8 回 参加者 327 人)【こころの健康センター】

(3) 休養

睡眠を十分にとっている市民の割合



<健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり>

(4) 飲酒 (P26~27)

【関係機関・団体】

- ・ 公立校に非常勤で配置されている各学校薬剤師が飲酒・喫煙・薬物乱用防止教室を実施している。【市薬剤師会】

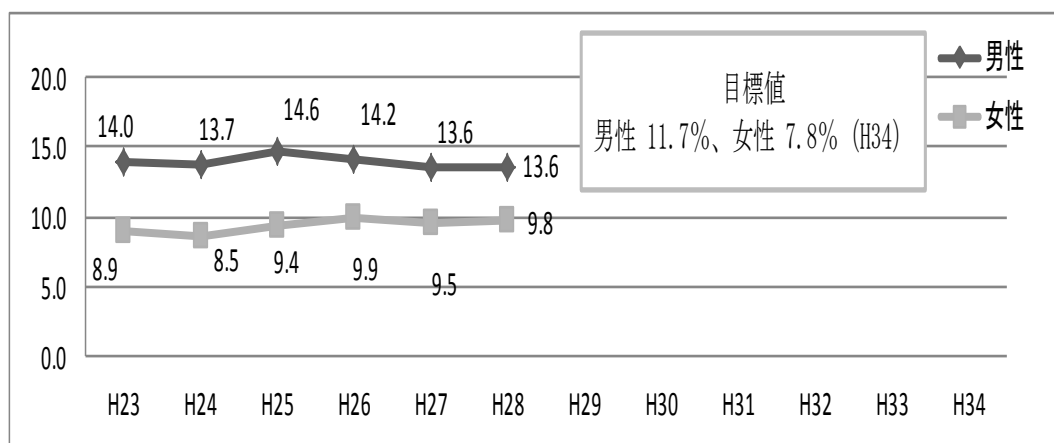
【行政】

- ・ 飲酒に関する情報提供・普及啓発として、依存症講演会（1回 参加者：30人）、依存症研修会（1回、参加者 92人）、ホームページでの依存症に関する情報提供、依存症家族教室（24回 参加者：延べ 131人）を実施【こころの健康センター】
- ・ アルコール関連問題啓発週間において、適正飲酒量についてのパネル展示を実施。【精神保健福祉室】

(4) 飲酒

生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者

(男性は清酒換算2合以上、女性は清酒換算1合以上の者)の割合の減少



<健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり>

(5)喫煙 (P28~29)

【関係機関・団体】

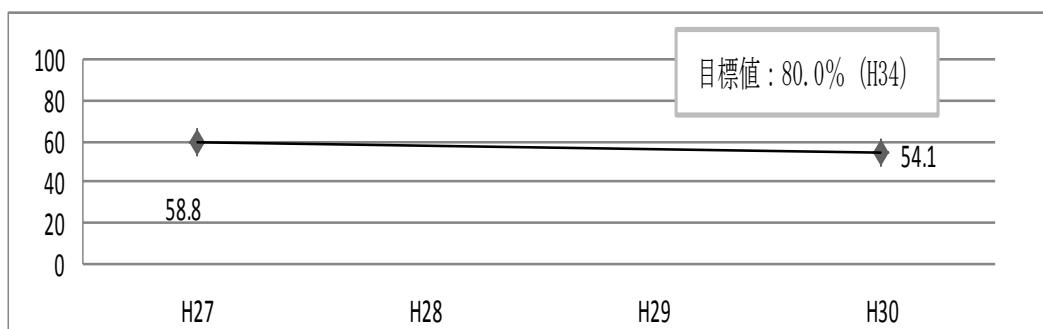
- ・ 受動喫煙防止対策助成金の周知。【労働基準監督署】
- ・ 妊婦歯科健診に来た妊婦さんに、妊娠中の喫煙と早産の関係や、出産後の子供の受動喫煙の害に対する啓発を行い、禁煙指導を行う。【市歯科医師会】

【行政】

- ・ 親子（母子）健康手帳交付時に妊婦や乳幼児へのタバコの影響について啓発及びマタニティマークを交付。親子（母子）健康手帳交付時、妊婦やその家族に喫煙者がいる場合、引き続き禁煙手帳を配布。【健康づくり推進課・子ども政策課・保健子ども課】
- ・ 平成29年度地域における喫煙・COPDの啓発実績（92校区中 36校区 計70回 1,777人）【保健子ども課】

(5) 喫煙

COPDの認知度の向上



<健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり>

(6) 歯・口腔の健康 (P30~32)

【関係機関・団体】

- ・ 歯っぴー39チャレンジの啓発と、ハッピーライフカード無料健診への協力。【市歯科医師会】
- ・ 園歯科医から「乳幼児の保育に関わる方に今伝えたいこと」と題して講演会を実施。会員58名、会員外35名の計93名の参加があった。【市保育園連盟】
- ・ 「歯科検診」を通して、現在の子どもの歯の状態を知るとともに「良く噛む」や「ブラッシング」の大切さを日々積み重ねる。「ブラッシング教室」や「フッ化物洗口」の実施園もあり。【私立幼稚園・認定こども園協会】
- ・ 北区「いきいき未来のつどい」における歯みがき指導や唾液腺マッサージ、舌体操を実施。仮設住宅3ヶ所（南田尻・平原・秋津）にて、歯科講話と口腔ケアを実施。健康商店街における歯科相談・口腔衛生指導を実施。【県歯科衛生士会】
- ・ 熊本県歯科医師会と連携し、事業所における歯援プログラム[質問票及びペリオスクリーン（唾液検査）の実施による歯科指導及び歯科医への受診勧奨]を、実施した。（12事業所240名に対し実施）【協会けんぽ】
- ・ 学園大の大学祭の「歯たちの健診」において、案内チラシやリーフレット（歯と口の大切さ）を配布し、健診の呼びかけに協力した。【8020健康づくりの会】

【行政】

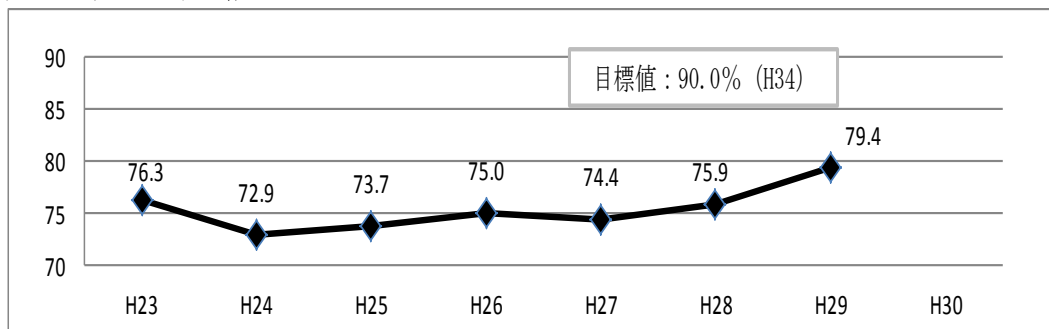
- ・ 歯っぴー39チャレンジの推進。無料歯科健診券付き予防啓発カード「HappyLife」を配布し、定期健診を受ける市民を増やすとともに保護者から子どもへむし歯菌の感染を防ぐ取り組みを実施。（市役所・区役所で配布）市医師会会員の全ての医療機関においてむし歯予防リーフレットを配布して頂き、小さい頃からのむし歯予防意識の向上を図る取り組みを実施。（市役所・区役所で配布）【健康づくり推進課・各区保健子ども課】
- ・ フッ化物洗口を保育園や幼稚園などでの実施 H29:106園/219ヶ所(48.4%)

<平成30年度からの新規取り組み>

- ・ 「熊本市8020健康づくりの会」発足10周年を記念して、笑顔ヘルシーキャンペーンにおいて、歯科医師会をはじめとする関係団体と一緒に、新市街から下通りのアーケードをパレードし、熊本市8020健康づくりの会の周知を図る（11月4日）。【8020健康づくりの会】
- ・ フッ化物洗口の実施校の拡大を図る。【健康づくり推進課、各区保健子ども課】

(6) 歯・口腔の健康

3歳児でむし歯のない者の増加



<健康を支え守るための社会環境の整備>

(1)小学校区単位の健康まちづくり (P33~34)

【関係機関・団体】

- 健康づくりのイベントなどを地域住民と開催した。歩くイベントを多世代参加型で開催した。校区のイベントで健康コーナーを設け、血圧測定や血液検査、骨密度検査などを実施し、好評をいただいた。【地域包括支援センター連絡協議会】
- 託麻西校区健康づくり推進協議会では、毎年、つぎのことを実施している (①ウォーキング大会②早朝ハイキング③ウォークラリー大会④西日本病院での健康講座⑤夏休みに子どもと一緒にラジオ体操他) 【東区健康まちづくりを推進する団体】
- 校区イベントの実行委員会の中で保健子ども課より校区の健康課題について説明してもらい情報共有・意見交換の実施。健康まちづくり部会を中心に校区イベントに血管年齢測定など健康まちづくりコーナーを設け啓発活動を実施。【西区健康まちづくりを推進する団体】

【行政】

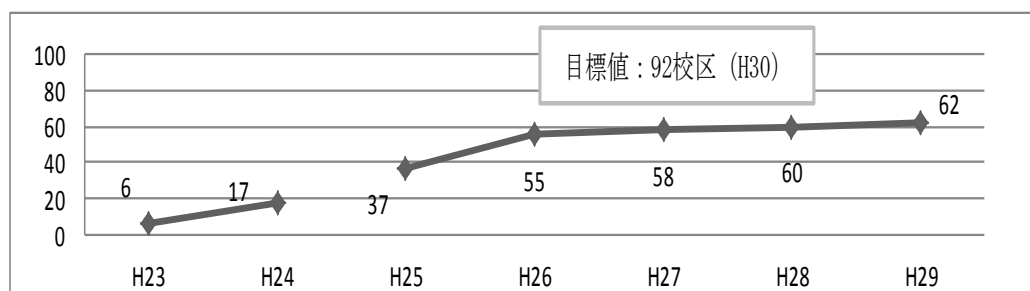
- 管内全校区の自治協議会へ健康まちづくり事業への取り組みを働きかけ、現在、19校区で事業展開中。健康まちづくり評価指標アンケート実施。校区、347人の結果で、健康まちづくり認知度は77.2%。全区的な事業展開として南区まちづくり推進事業との連動した「南区ウォーキングキャンペーン」を実施。これは、総歩数を団体、個人で競うイベントで全校区が参加。上位者・チーム(校区)が表彰された。【南区保健子ども課】
- 健康まちづくり報告会をぶらりきたくなる大学(北区まちづくり事業)と合同開催。内容を健康まちづくり活動報告と、住民と大学生、市職員とで今後の健康まちづくりやまちづくりについてのワークショップを実施。(97名参加。)【北区保健子ども課】
- 職員を対象にしたソーシャルキャピタル(社会や組織における人と人との“つながり”の蓄積)についての研修会を開催。【健康づくり推進課】

<平成30年度からの新規取り組み>

- まちづくりセンター職員と校区情報の共有・連携を図り、校区ごとの事業を推進する。【中央区保健子ども課】
- まちづくりセンターとの連携・連動による区役所としての「まちづくり」と「健康づくり」の新しい「しくみ」の構築。仮設住宅、みなし仮設等への健康づくり支援も本事業の中で位置づけられるような地区組織との調整。【南区保健子ども課】
- 高平台校区、麻生田校区において、健康まちづくりワークショップを開催している。【北区保健子ども課】

(1) 小学校区単位の健康まちづくり

市民と協働で健康をテーマとしたまちづくりを実施する校区の増加



<健康を支え守るための社会環境の整備>

(2) 健康づくりを支えるボランティアの育成・支援 (P35)

【関係機関・団体】

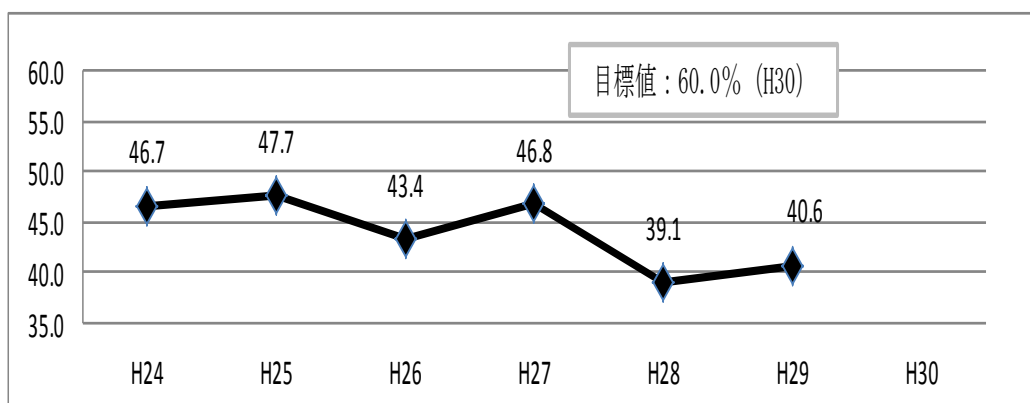
- ・ 8020推進員の研修会や増員に協力する。【市歯科医師会】
- ・ 健康づくり支援者研修会を開催し、健康づくりボランティアを育成した。【地域包括支援センター連絡協議会】

【行政】

- ・ 健康づくりに関するボランティア養成、活動支援として、食生活改善推進員（H29実績73名）や8020推進員（H29実績49名）等の健康ボランティアを養成。【健康づくり推進課】
- ・ 東区健康まちづくり推進員養成講座（第4期生）を実施。（全8回、延べ参加数168名、修了者数21名）健康まちづくり推進員の地域活動参加（延120回、延473人）。健康まちづくり推進員協議会の運営・活動支援。また、健康をつくるボランティア医師・歯科医師の会「とんぼの会」の発足、活動支援。【東区保健子ども課】
- ・ 「健康さるく熊本西（医療機関の医師等、専門学校の健康教育に関わる専門家、民間企業等で構成）」が、校区単位の健康まちづくりを支えるボランティア団体として活動することを支援する。【西区保健子ども課】
- ・ 介護予防サポーター養成講座を実施。【高齢介護福祉課】
- ・ 精神保健福祉ボランティア養成講座修了生のつどいを実施【こころの健康センター】

(2) 健康づくりを支えるボランティアの育成・支援

過去1年間に地域活動に参加した市民の割合（参加したことがある）



<健康を支え守るための社会環境の整備>

(3)企業・大学等の健康づくり活動の促進 (P36~37)

【行政】

- 各区における大学生等の食事に関する実践力アップのための食育実践講座の開催（開催回数20回）全国健康保険協会（協会けんぽ）熊本支部と、健康づくりに関する包括協定に基づいた取り組みを実施。がん対策の推進に取り組む企業・団体等の拡充。
【健康づくり推進課】
- がん対策を推進する企業・団体との協定締結に向け公募を実施。がん対策を推進する企業3社とがん対策企業等連携協定を締結。がん対策の推進に取り組む企業・団体等の拡充。がん対策を推進する企業・団体との協定締結に向け公募を実施。がん対策を推進する企業とがん対策企業等連携協定締結。【健康づくり推進課】
- 健康づくりできます店の推進【健康づくり推進課】

(3) 企業・大学等の健康づくり活動の促進

健康づくりできます店の登録数の増加

